

常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ

世界の檜舞台で活躍するドイツの名匠

ヴァイオリン

樫本大進

ヨーロッパ楽壇の最前線を走る俊英

屍海そ 屍として積みあがっている海への祈りの声だけがそして

モーツァルト フリーメイソンのための葬送音楽 ^{ハ短調 K.477}

細川俊夫 ヴァイオリン協奏曲「祈る人」

モーツァルト 交響曲第31番 =長調 K.297「パリ」

シュレーカー あるドラマへの前奏曲

読売日本交響楽団 第630回 定期演奏会 2023 7.27(木) 19:00 サントリーホール S¥8,000 A¥7,000 B¥6,000 C¥4,500 読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時·年中無休) 主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成: ※ 文 5 に 庁 文 化 庁 文 化 芸術 振興 費補 助 金 (舞台芸術 等総合支援事業(創造団体支援)) 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力:アフラック生命保険株式会社

ヴァイグレが描く 儚さと美しさ モーツァルト、細川、シュレーカー

常任指揮者ヴァイグレによる《定期演奏会》は、モーツァルトの2作品と、細川俊夫の新作、フランツ・シュレーカーのオペラティックな作品を並べたプログラム。4作品を通し、多様な美、祈りと静寂が浮かび上がる。

メインのシュレーカー「あるドラマへの前奏曲」は、日本では極めて 演奏機会の少ない曲だが、後期ロマン派の作曲家による傑作だ。彼 はシェーンベルクとほぼ同時期に生まれ、ウィーンで学び、ベルリン などで活躍した。ワーグナーやR.シュトラウスらドイツ・オーストリア系 音楽の流れを汲みながら、ドビュッシーら印象主義などの影響も受け た。しかし、ナチス台頭によりヒンデミットやアイスラーらと共に"退廃 音楽"のレッテルを貼られて要職を解雇され、失意のうちにこの世を 去った。死後、長らく歴史に埋もれていたが、90年代から欧州での 彼の再評価も進み、オペラ作品などは今も演奏されている。「あるド ラマへの前奏曲」は、彼の出世作と言われる歌劇「烙印を押された 人々」の音楽をまとめた交響詩のような作品。巨大編成のオーケスト ラが、濃厚で官能的なロマンティシズム溢れる音楽を展開する。オペ ラに長けたヴァイグレは、ドラマティックかつ繊細な表現で、シュレー カーの魅力を存分に引き出すだろう。

前半には、ベルリン・フィルのコンサートマスターを務める樫本大進を独奏に迎え、国際的に活躍する孤高の作曲家・細川俊夫による新曲「祈る人」を日本初演する。同作は、今年3月にベルリン・フィルで世界初演され、絶賛された。細川は「2020年に始まったパンデミックが終結することなく、22年2月にウクライナ戦争が始まり、世界はますます混迷を深めようとしている。個人的なことだが、そのような時に、私の母は亡くなり、また私自身も病いに倒れ、入院、手術を繰り返した。この『祈る人』は、そうした時代に生まれた」と語っている。独奏の樫本は、神と交信するシャーマンの如く取り憑かれ、渾身の祈りの音楽を展開するだろう。

前後半の冒頭には、モーツァルトの2作品を披露する。1曲目の「フリーメイソンのための葬送音楽」は、悲しみの中に希望への「祈り」を込めた感動的な音楽だ。後半最初の交響曲第31番「パリ」は、シュレーカー作品とは対照的な音楽。軽やかで生き生きとし、しかも格調高い音楽だ。

ヴァイグレのタクトは、4つの作品を通じてどのような一夜の物語を描くのか、興味は尽きない。







読売日本交響楽団 第630回 定期演奏会

2023年 7月 2 7日(木) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001 S ¥8,000 / A ¥7,000 / B ¥6,000 / C ¥4,500

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生数学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390 *10時-18時・年中無休

で置
アクットVVED
*座席選択可/チケット郵送料無料

読響チケットWEB http://yomikyo.pia.jp/

